
フィギュア嫁

柊鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フィギユア嫁

【Nコード】

N0201G

【作者名】

柊鏡

【あらすじ】

等身大ドールは存外、よくできているものである。

等身大ドールは存外、よくできているものである。ダッチワイフと云えばとても女性に思えないバルーンと相場が決まっていた時代は、当の昔なのである。

特にオリエント工業の再現率は素晴らしいものだ。一体数十万の価格帯であるが、それだけの大枚を叩いたとて、少しも惜しくない触れば、体温はないし、無機物の膚ざわりがして、確かに人間ではないと解るのだが、傍目には人間に見えてしまうほどに精巧だ。3DCGとて写真と見紛わんばかりのものもあるのだから、物質で再現できない道理もあるまい。

私は、一つ購入した。いや、一人と呼ぶのが正しいのかもしれない。この行為をドール者の隠語で、嫁入りと云う。

日本の法律では重婚は禁止されているが、私はドールを嫁に貰った。心の中で婚姻届を取り交わすのだから、法治の埒外である。

妻がいる身であるが、どうしても欲しかったのだ。股に装着する別売りのホールも購入済みである。私の妻はセックスができないので、いたし方なかったのだ。性欲は中々どうして我慢できない。

しかし、家に大きなダンボールが届き、その中が知れると妻は怒った。

烈火の如く憤怒を露にしたのだ。

私は妻に謝った。「すまん。すまん。すまん。すまん」

「酷い。くそ、くそ」

一行に妻は治まらず、私は困り果てた。

妻はなおも言う。「私がセックスできないのがそんなにイヤなの、イヤなのッ！」

「すまん。すまん。すまん。すまん」

愛があればいいのだと、誰が言ったか知らないが、男の性に私は正直だったただけだ。謝りながら、段々彼女の言い様が理不尽に思え

てきた。

私はパソコン越しに言った。「おまえに俺の気持ちなんか解るもんか」

「ふん。いいもん。いいもんッ!」

ガリガリとHDDが鳴った。

鳴った時には当に手遅れで、ブルーアウトしたパソコンのディスプレイを唯^{ただ}呆然と眺める以外、私に方法はないのだった。茫然自失で何時間もそうしていると、自室のドアがノックされた。

「アキヒトさん。お医者さんが来ましたよ」と言ったのは、同年代の身も知らぬ女性であった。女性に続いてやってきた白衣の男が言った。「奥さん。大変ですね」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0201g/>

フィギュア嫁

2010年11月17日03時01分発行